



かほく防災記者リポート



宮城・南三陸の津波被災地視察 教訓に耳かたむける



旧防災対策庁舎前で震災発生直後を振り返る遠藤さん(左端)

東日本大震災の教訓や災害への備えを学び、発信するかほく防災記者の中学・高校生3人が7月13日、大学生らを対象に河北新報社などが開く通年講座「311『伝える/備える』次世代塾」の被災地視察に参加し、宮城県南三陸町を訪れた。震災発生時に副町長だった遠藤健治さん(76)の話の聞いたり、旧防災対策庁舎のある町震災復興祈念公園を見学したりした。

震災で、町に15メートル超の津波が押し寄せ、死者・行方不明者は831人の上った。遠藤さんは「ハザードマップで津波浸水域としなかった地域で多くの犠牲者が出た。浸水しないとされた地域の住民にとって『安全マップ』になってしまった」と教訓を説明した。

震災発生直後、旧防災対策庁舎は津波にのみ込まれ、町職員ら43人が犠牲になった。遠藤さんも庁舎にいたが、九死に一生を得た。

遠藤さんは「ここに来ると、命を落とした一人一人の顔が思い出される」と語り、「皆さんは一日一日を大切に過ごし、自分の命をどう守るかを日々の暮らしの中で考えてほしい」と呼びかけた。

被災地の反省自分事に

遠藤さんの話を聞いて命を大切に、震災の教訓を次の世代に伝え、生かすことが大事だと思っただ。今の自分にできるのは被災地を訪れ、自分の目で見て、反省点を自身にすること。そして、いつ起こるか分からない災害に日頃から備え、いざと言う時には落ち着いて命を守る行動をとれるようにしたい。



鈴木慎人さん

(大河南産業高1年 鈴木慎人さん 15歳)

津波の恐ろしさに衝撃

旧防災対策庁舎の姿に言葉を失い、津波の恐ろしさを思い知った。庁舎と一緒にいた人たちが、津波で一瞬にして消え去ってしまった話に、衝撃を受けた。観光客を誘導するため、震災前は道路に、現在は看板に緑の矢印で避難先を表示しているの聞き、大切な取り組みだと感じた。周りの人にも教えたい。



後藤有咲さん

(仙台市富沢中2年 後藤有咲さん 13歳)

「想定外」考える必要も

ハザードマップは地域の安全を示すものだと思っていた。震災でハザードマップの想定を超える津波が押し寄せ、浸水想定区域の外でも多くの犠牲者が出たと聞いて驚いた。ハザードマップは大事だが、災害時には過信せず、想定外のことも起きるかもしれないと考えて行動する必要があることを学んだ。



高橋彩葵さん

(仙台市七北田中2年 高橋彩葵さん 13歳)

河北新報 第30回

取材しよう、記事を書こう!

新聞記事コンクール

応募締め切り 9月2日(月)

主催/河北新報社 お問い合わせ:河北新報社 防災教育室 ☎022-211-1309

宮城県小学生

プログラミング大会2024

応募締め切り 9月16日(月・祝)

主催/河北新報社、東北工業大学、全国新聞社事業協議会 お問い合わせ:河北新報社文化事業部 ☎022-211-1358

夏休み チャレンジしよう!!

河北新報

河北新報 小・中学生

新聞をめくろう! 切り抜こう!

スクラップ作品コンクール

応募締め切り 9月20日(金)

主催/宮城河北会、河北新報社 お問い合わせ:河北新報社 販売部 ☎022-211-1302

第17回

半紙部門 ミニ条幅部門

河北小中学生書道展

応募期間 9月25日(水)~10月2日(水)

主催/河北新報社 お問い合わせ:河北新報社文化事業部 ☎022-211-1358